

## 令和6年度 大学院医学院修士・博士課程入学式告辞

北海道大学大学院医学院への進学、おめでとうございます。医学院教職員一同を代表してお祝い申し上げます。希望に胸を膨らませ、喜びに目を輝かせている皆さんをお迎えできずことをたいへん嬉しく思います。

北海道大学大学院医学院の前身である医学研究科は新制大学院制度の発足に伴い昭和30年（1955年）に設置されました。平成12年（2000年）に大学院重点化が行われ、学部を中心とした従来の教育研究組織から、大学院を中心とした教育研究体制へと移行し、大学院における教育と研究の充実化が行われました。

そして平成29年（2017年）4月、北海道大学大学院医学研究科は、変化の著しい社会のニーズに応える人材を機動的に輩出するため、これまで教育組織と研究組織が一体であった「研究科」を、大学院生が所属する「学院」と教員が所属する「研究院」に分離し、異分野を有機的に融合したグローバルな大学院教育の展開を可能にしました。すなわち、学院での教育は複数の研究院及び附置研究所等の教員が担当できるようになり、研究領域に縛られることなく、教育資源の再配分が可能になりました。この新システムの導入により、社会が要請する新たな教育を実施する場合、教員組織再編を伴わずに、迅速に教育組織を設置することが可能になりました。

博士課程は、1専攻、3コース制をとっており、専門分野の枠を超えた教育に重点を置くとともに、コースごとに高い専門性が担保されるようにカリキュラムを工夫しています。具体的には、医学研究者・研究医を育成する「基盤医学コース」、社会医学及び公衆衛生行政の分野で活躍する人材を育成する「社会医学コース」、高度な臨床研究を遂行する人材を育成する「臨床医学コース」の3つがあります。

医学院では、特に減少が懸念されている基礎医学研究者・教育者を育成するため、平成21年（2009年）より医学科出身者を対象として「MD-PhDコース」を導入いたしました。このコースでは、医学部6年生から大学院授業科目を履修することができ、条件を満たせば大学院を3年間で短縮修了することができます。また、2013年度からは新たに「CLARCプログラム」を開始いたしました。これは、臨床研修2年目に大学院に進学し、臨床研修と同時に大学院での学修をスタートさせるプログラムです。

修士課程については、他の多くの大学に先駆けて平成14年（2002年）に修士課程（医科学）を設置いたしました。本課程は、医学以外の学問体系を学んできた方々に最新の医科学や社会医学を教授することにより、異分野の知の融合を促進し、独創性と複合的な視点を兼ね備えた研究者や高度専門職業人を養成することを目的としています。平成29年度（2017年）から、新たに「公衆衛生学コース」を設置し、公衆衛生修士号を取得できる教育システムを導入いたしました。さらに、高齢化・過疎化など北海道独自の地域の諸課題に対応できる人材を迅速に社会へ送り出すため、医師、歯科医師、薬剤師などの医療職に従事し、実務経験を有した方々に対して1年で修了できる1年コースも設定いたしました。

医学院の理念として、「世界をリードする先進的医学研究の推進、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人の育成による人類の健康と福祉への貢献」を掲げ、医学・生命科学・社会医学に関する高い倫理観及び高度な専門的知識と研究及び教育・実践能力を備えた人材の養成を教育目標としています。今日の医学・医療の進歩は、過去の研究の成果に基づきますから、将来にむけての継続的な研究なくして、明日の医学・医療の進歩はありません。しかしながら、最近の我が国の大学では大学院への入学者減少、そして医学・医療の未来を担う若手研究者の減少という憂慮すべき事態が生じております。その背景には、若者人口の減少にともなう若手研究者の減少や新臨床研修制度、新専門医制度の導入などが指摘されております。このような状況のもと、皆さんが医学院に進学する道を選択したことに対し、心より敬意を表したいと思えます。基礎研究者として活躍したいと考えている方、研究志向を有した臨床研究医を目指している方、そして研究力を有した高度専門職業人を目指している方にとっても、本学において最先端の研究に触れ、自らの研究を遂行することは、一生の財産になると思えます。皆さんには、医学院在学中に、研究立案遂行能力を身につけるのみならず、激変する社会変化に対応する資質と能力を高め、挑戦する気持ちを抱いていただきたいと思います。

これから最先端の医学研究を学ぶ皆さんには、優れた科学者のひとりとして、崇高な倫理観のもとに新たな知の創造や社会の諸課題に主体的に取り組み、社会の期待にこたえていただきたいと思います。最終的には、大きな夢と高い理想を有し、立派な研究成果をあげることによって学位を取得し、本学を巣立つことを祈念しております。

令和6年4月1日

北海道大学大学院医学院長 畠山 鎮次